

沿 革

瀬戸内市消防本部の沿革

昭和48年	7月	邑久地区消防組合設立協議会を設置。
	12月	邑久消防組合設置許可申請。
昭和49年	4月	邑久消防組合設立許可。(岡山県指令地第2号)
	〃	消防本部及び消防署設置についての政令指定を受ける。
	〃	消防職員15名を採用。
	5月	連絡車1台購入。
	6月	邑久消防組合消防本部、邑久消防署の業務を開始。
昭和50年	3月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
	4月	消防職員7名採用し、総員22名となる。
	〃	救急業務開始。
	5月	邑久消防組合消防本部、邑久消防署庁舎完成。
	7月	消防ポンプ自動車1台購入。
	〃	無線中継局舎完成。
	10月	無線局開局。
昭和51年	3月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車1台寄贈を受ける。
	4月	消防職員5名採用し、総員27名となる。
	6月	小型動力ポンプB-3級購入。
	7月	化学車1台購入。
昭和52年	4月	消防職員5名と一般職員1名採用し、総員33名となる。
	7月	日本消防協会より広報車1台寄贈を受ける。
	10月	消防ポンプ自動車1台購入。
	〃	牛窓分駐所庁舎完成。消防職員8名、消防ポンプ自動車1台、救急車1台を配備。
	12月	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
昭和53年	2月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
	4月	消防職員9名採用し、総員42名となる。
	9月	日本消防協会より可搬積載車1台寄贈を受ける。
	10月	長船分駐所庁舎完成。消防職員8名、消防ポンプ自動車

		1 台、救急車 1 台を配備。
昭和 5 4 年	3 月	日本損害保険協会より救急車 1 台寄贈を受ける。
	〃	消防職員 1 名退職し、総員 4 1 名となる。
	4 月	消防職員 3 名採用し、総員 4 4 名となる。
	9 月	日本防火協会より予防広報車 1 台寄贈を受ける。
昭和 5 5 年	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 4 5 名となる。
	9 月	日本消防協会より可搬積載車 1 台寄贈を受ける。
昭和 5 6 年	2 月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車 1 台寄贈を受ける。
	4 月	小型動力ポンプ C - 1 級購入。
	9 月	日本消防協会より指令広報車 1 台寄贈を受ける。
昭和 5 7 年	7 月	消防職員 1 名退職し、総員 4 4 名となる。
昭和 5 8 年	8 月	日本消防協会より救出救助用資器材搬送車 1 台寄贈を受ける。
昭和 5 9 年	4 月	緊急連絡車 1 台購入。
昭和 6 0 年	2 月	邑久消防組合敷地拡張造成工事をする。
	8 月	邑久消防組合敷地購入。
	1 0 月	1 5 m はしごバスケット付消防ポンプ自動車購入。
	1 2 月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車 1 台寄贈を受ける。
昭和 6 1 年	1 0 月	消防庁舎増改築工事竣工。
昭和 6 2 年	3 月	消防庁長官表彰 竿頭綬を受賞する。
	8 月	邑久消防組合敷地購入。
	9 月	日本消防協会より指令車 1 台寄贈を受ける。
	〃	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受ける。
	1 0 月	照明付救助工作車購入。
	1 2 月	日本自動車工業会より救急車 1 台寄贈を受ける。

昭和 6 3 年	8 月	邑久消防組合敷地購入。
平成元年	3 月	邑久消防組合訓練場造成完成。
	〃	消防職員 1 名退職し、総員 4 3 名となる。
	4 月	消防職員 2 名採用し、総員 4 5 名となる。
	5 月	連絡車 1 台購入。
平成 2 年	1 月	日本損害保険協会より救急車 1 台寄贈を受ける。
	9 月	日本防火協会より予防広報車 1 台寄贈を受ける。
平成 3 年	3 月	消防職員 2 名退職し、総員 4 3 名となる。
	4 月	消防長、邑久町役場より出向し、総員 4 4 名となる。
	5 月	連絡車 1 台購入。
	1 2 月	I S D N 1 1 9 番 2 台設置。
平成 4 年	2 月	日本損害保険協会より救急車 1 台寄贈を受ける。
	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 4 3 名となる。
	4 月	消防職員 3 名（内 1 名は女性消防士）採用し、総員 4 6 名となる。
	1 0 月	消防ポンプ自動車 1 台購入。
	〃	今城地区 1 1 9 番電話回線切替え。
平成 5 年	4 月	消防職員 2 名を採用し、総員 4 8 名となる。
	〃	臨時職員を 1 名採用する。
	〃	一般職員から消防職員（女性消防吏員）に任命する。
	9 月	臨時職員 1 名退職する。
	1 0 月	消防ポンプ自動車 1 台購入。
	1 1 月	新消防庁舎の敷地造成起工。
平成 6 年	3 月	新消防庁舎の敷地造成完成。
	4 月	消防職員 2 名採用し、総員 5 0 名となる。
	〃	臨時職員 1 名採用する。
	5 月	邑久消防組合消防本部、消防署新庁舎及び防災センター起工。
	8 月	邑久町虫明 横山春松氏より救急車 1 台寄贈を受ける。

平成 7 年	1 月	兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）が発生し、神戸市へ応援活動。
	3 月	邑久消防組合消防本部、消防署新庁舎及び防災センター完成。
	3 月	通信指令設備新設（総合指令台 I 型、無線通信設備、気象観測装置、支援情報表示盤、非常用指令設備、録音装置、職員出退表示、電話交換機）
	〃	邑久消防組合 20 周年記念式典及び新庁舎完成落成式典。
	4 月	新消防庁舎へ移転、防災センター業務開始。
	〃	消防職員 2 名採用し、総員 52 名となる。
	〃	防災通信ネットワーク完成、運用開始。
	9 月	臨時職員 1 名退職。
	10 月	臨時職員 1 名採用する。
	11 月	旧消防庁舎解体工事完了。
	12 月	訓練塔完成（鉄筋コンクリート造・5 階建）
	〃	消防職員 1 名退職し、総員 51 名となる。
平成 8 年	4 月	消防職員 3 名採用し、総員 54 名となる。
	5 月	資機材搬送車（軽四輪車）1 台購入。
	8 月	可搬積載車 1 台購入。
	10 月	消防職員委員会発足。
	〃	水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入。
	12 月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車 1 台寄贈を受ける。
平成 9 年	1 月	消防職員 1 名退職し、総員 53 名となる。
	3 月	消防長退任・職員 1 名退職し、総員 51 名となる。
	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 52 名となる。
	〃	消防長、再任用され、総員 53 名となる。
	〃	救急救命士 2 名誕生する。
	7 月	消防職員 1 名退職し、総員 52 名となる。
平成 10 年	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 53 名となる。
	〃	岡山県災害医療情報システム設置、運用開始。
	〃	救急救命士 3 名となる。
	11 月	移動体通信 119 番転送、受信装置設置、運用開始。

平成 1 1 年	2 月	高規格救急車 1 台購入。
	3 月	消防長退任・職員 1 名退職し、総員 5 1 名となる。
	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 5 2 名となる。
	〃	消防長就任、総員 5 3 名となる。
	〃	救急救命士 4 名となる。
	〃	高規格救急車、運用開始。
	1 2 月	コンピューター西暦 2 0 0 0 年問題警戒体制をとる。
平成 1 2 年	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 5 4 名となる。
	〃	救急救命士 5 名となる。
	8 月	日本損害保険協会より化学車 1 台寄贈を受ける。
	1 1 月	指揮車 1 台購入。
平成 1 3 年	3 月	日本消防協会より司令車 1 台寄贈を受ける。
	〃	消防庁長官表彰 表彰旗を受賞する。
	4 月	救急救命士 6 名となる。
	5 月	連絡車 1 台購入。
	6 月	邑久郡防災広域ネットワーク運用開始。
	8 月	資機材搬送車 1 台購入。
	〃	可搬積載車（軽四） 1 台購入。
平成 1 4 年	3 月	日本自動車工業会より高規格救急車 1 台寄贈を受ける。
	〃	消防職員 1 名退職し、総員 5 3 名となる。
	4 月	職員定数条例の改正により定数 6 8 人となる。
	〃	消防職員 4 名採用し、総員 5 7 名となる。
	〃	救急救命士 7 名となる。
	〃	連絡車 1 台購入。
平成 1 5 年	4 月	消防職員 5 名採用し、総員 6 2 名となる。
	〃	救急救命士 8 名となる。
	6 月	消防職員 1 名退職し、総員 6 1 名となる。
平成 1 6 年	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 6 0 名となる。
	〃	消防ポンプ自動車 1 台購入。
	4 月	消防職員 5 名採用し、総員 6 5 名となる。
	〃	救急救命士 9 名となる。
	7 月	消防職員 1 名退職し、総員 6 4 名となる。

平成 17 年	1 1 月	瀬戸内市発足に伴い、瀬戸内市消防本部となる。
	〃	瀬戸内市から職員 1 名配属され、総員 65 名となる。
	〃	瀬戸内市より連絡車 1 台寄贈を受ける。
	1 2 月	消防職員 1 名退職し、総員 64 名となる。
	〃	救助工作車 1 台を更新。
	1 月	消防職員 1 名退職し、総員 63 名となる。
	4 月	消防職員 5 名採用し、総員 68 名となる。
	〃	救急救命士 10 名となる。
	1 0 月	長船分駐所の増・改修工事完了。
	1 1 月	高規格救急車 1 台購入。
平成 18 年	1 2 月	携帯電話からの 119 番直接受信開始。
	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防職員 2 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	救急救命士 11 名となる。
平成 19 年	1 2 月	消防職員 1 名退職し、総員 68 名となる。
	1 月	はしご車 1 台を更新。
	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防長、就任し総員 68 名となる。
	〃	消防職員 1 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	救急救命士 12 名となる。
	5 月	瀬戸内市消防団より消防ポンプ自動車 1 台移管。
平成 20 年	1 2 月	消防職員 1 名退職し、総員 68 名となる。
	3 月	消防職員 2 名退職し、総員 66 名となる。
	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 67 名となる。
	〃	救急救命士 13 名となる。
平成 21 年	3 月	消防長退任、消防職員 2 名退職し、総員 64 名となる。
	4 月	消防職員 4 名採用し、総員 68 名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士 14 名となる。
	1 1 月	高規格救急車 1 台購入。
平成 22 年	3 月	牛窓分駐所 C D - I 消防ポンプ自動車 1 台更新。

平成 23 年	〃	高機能指令センター統合型指令装置更新整備。
	〃	消防職員 1 名退職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防職員 2 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	救急救命士 15 名となる。
	7 月	消防職員 1 名退職し、総員 68 名となる。
平成 24 年	3 月	東日本大震災が発生し、宮城県多賀城市へ応援活動。
	〃	消防職員 1 名退職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防職員 2 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員 1 名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士 16 名となる。
平成 25 年	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 68 名となる。
	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	救急救命士 17 名となる。
	11 月	全国共済農業協同組合連合会岡山県本部より、高規格救急車 1 台寄贈を受ける。
平成 26 年	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 68 名となる。
	〃	岡山市消防局と人事交流を終了する。
	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	救急救命士 17 名となる。
平成 27 年	3 月	消防長退任し、総員 68 名となる。
	〃	瀬戸内市職員 1 名市へ帰職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防救急デジタル無線運用開始。
	〃	消防職員 2 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士 18 名となる。
平成 27 年	8 月	豪雨による広島土砂災害が発生し、安佐南区へ応援活動。
	3 月	消防職員 1 名退職し、総員 68 名となる。
	4 月	消防職員 1 名採用し、総員 69 名となる。
	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員 1 名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士 19 名となる。

平成 28 年	4 月	岡山県消防学校と人事交流し職員 1 名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士 20 名となる。
	〃	熊本地震が発生し、熊本県益城町へ応援活動。
平成 29 年	3 月	消防職員 2 名退職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防職員 5 名採用し、総員 72 名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員 1 名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士 22 名となる。
	〃	岡山県消防防災航空隊へ 1 名派遣する。
	10 月	消防職員 1 名退職し、総員 71 名となる。
平成 30 年	3 月	消防職員 5 名退職し、総員 66 名となる。
	4 月	消防職員 6 名採用し、総員 72 名となる。
	〃	救急救命士 23 名となる。
	7 月	平成 30 年 7 月豪雨災害が発生し、倉敷市真備町へ県下消防相互応援協定に基づく応援活動。
平成 31 年	3 月	消防職員 2 名退職し、総員 70 名となる。
	4 月	消防職員 6 名採用し、総員 76 名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士 24 名となる。
令和元年	6 月	消防職員 1 名退職し、総員 75 名となる。
令和 2 年	3 月	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入。
	〃	消防職員 8 名退職し、総員 67 名となる。
	4 月	消防職員 6 名採用し、総員 73 名となる。
	〃	岡山県消防学校へ 1 名派遣する。
	〃	救急救命士 26 名となる。
	12 月	日本損害保険協会より、高規格救急車 1 台寄贈を受ける。
令和 3 年	3 月	消防職員 3 名退職し、総員 70 名となる。
	4 月	消防職員 3 名採用し、総員 73 名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士 25 名となる。
	9 月	消防職員 1 名退職し、総員 72 名となる。

令和4年	10月	長船分駐所庁舎新設移転。
	12月	高規格救急車1台購入。
	2月	支援車Ⅱ型（クレーン付き資機材搬送車）1台購入。
	3月	消防職員2名退職し、総員70名となる。
	4月	消防職員3名（内1名は女性消防士）採用し、総員73名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員1名を相互に派遣する。
令和5年	〃	救急救命士23名となる。
	2月	13mブーム付き多目的消防ポンプ車1台購入。
	4月	消防職員1名採用し、総員74名となる。
	〃	救急救命士25名となる。
令和6年	〃	岡山県消防防災航空隊へ1名派遣する。
	3月	職員1名退職し、総員73名となる。
	4月	消防職員新規3名採用し、再任用者1名を採用し総員77名となる。
	〃	消防長就任する。
令和7年	〃	救急救命士26名となる。
	4月	消防職員新規4名採用し、総員81名となる。
		救急救命士27名となる。 岡山県消防学校へ1名派遣する。